

第3回 苫小牧市総合戦略推進会議 議事録要旨

- 【日 時】 平成27年11月20日（金）16:00～18:00
- 【場 所】 苫小牧市役所9階 議会大会議室
- 【出席者】 石橋会長、小島副会長、秋山委員、佐藤委員、廣島委員、
坂田委員、戸川代理委員、今野委員、本庄委員、公地委員、
井上委員、加藤委員、甲谷委員、田中委員、辻田委員、肥高委員
（山上委員、高野委員欠席）
日本政策金融公庫 梅沢支店長、
胆振総合振興局地域政策部 高見部長、
苫小牧市 総合政策部 富田部長、政策推進室 町田室長、
政策推進課 小名課長、成田課長補佐、川合主査
デロイトトーマツコンサルティング 朝日、高橋

議 事 内 容

1 開会

【事務局から 会議概要等について、振り返りの説明】

【質疑】 なし

2 議題

(1) 人口減少抑制の課題と人口ビジョン更新版)

ア 人口ビジョンの振り返り

【事務局から 資料1に沿って説明】

【質疑】

(委員)

2040年、2060年、それぞれ⑤-Aでは15万7000人、2060年では14万、⑤-Bでは15万6000人、13万となっているが、この人口が市内のどこに分布されていくのか。生活の拠点として、今は東部の人口が増加しているが、人口が減っていった時に、どこが減っていくのか。どういう人口の分布になるのか。

(事務局)

地域別の人口分布に関して、エリア別の年齢分布のデータを持ち合わせていない。それが

どのように推移していくのかについては、明確に出せない。

(委員)

交通の便が悪い、買い物が不便だという理由で衰退する地域もある。ただ人口を増やせば良いのではなく、どういうまちづくりをしていくのかが、人口の増減に関係してくるのではないか。今のままでは見えてこない。

(委員)

恐らく、数値の話と我々が実感している現状が加味された上で、どうするのかというところにはいかないと、一般論で終わるのではないか。現実の数字を見てどうなのかという見方をしていくべきでは。

(事務局)

どういうまちづくりにするかについては、最終的には必ず必要になってくるが、まずは総合戦略では、人口減少に対する対策を、この場で協議したいと思っている。

市には総合計画という別の計画があり、その計画の見直しが平成30年にある。それに向けて、総合戦略で練った対策を総合計画の中に盛り込み、まちづくりの全体像というのを示せればと考えている。

(委員)

なぜこのような質問をしたかということ、最近、都市計画審議会の中で錦岡の土地が用途変更で1万平米以上の売り場ができることになった。人口が増えるのであれば、当然中心部から10キロ以上離れたところにそういう売り場ができて何ら影響が出てこないと思うが、今後、人口が減っていく中で1万平米を越える売り場が郊外に広がることにより、まとまりがないまちになる懸念がある。人口がどのような形で推移していくのかも大事だが、それに伴って苫小牧市がどのようなまちづくりを目指すのかも非常に重要な問題ではないのか。

(会長)

現実には、東と西の問題はある。この先の議題として具体的な提案もあるので、その中でこの視点も検討していけば良いのではないか。

(2) 総合戦略策定の考え方、および総合戦略(骨子)

ア 策定の考え方、検討プロセス

イ 総合戦略(骨子)

【事務局から 資料1に沿って説明】

【質疑】

(委員)

(20 ページ) ①の地域資源の部分で、苫小牧は中小企業がかなり多い。基本的には大企業なのだろうが、基本目標若しくは基本的方向の中で中小企業も盛り込むことは可能なのか。

(事務局)

地域資源として大企業をあげているが、中小企業についても、例えば起業の促進や中小企業的な考え方といった面を含め、方向性の策定、導き出しも行っている。

(委員)

苫小牧に中小企業が多いのは皆さんご存知の通りで、「中小企業もある」という文言を入れるべきではないか。

ウ 具体的な施策(案)

【事務局から 資料2に沿って説明】

エ 意見交換等

(委員)

「苫小牧らしさ」という言葉が入ってくるが、苫小牧市民以外で「苫小牧らしさ」とはどのようなことをイメージするのか。また、(資料1、20 ページ) ③の「全国初のスポーツ都市宣言」と「地域資源」は、どのように結びつくのか。④の「札幌まで特急で50分」というと確かに札幌に近いと感じるが、逆をいうと消費者の流出という面もあるのではないかな。地域資源でありながら、逆をいうとマイナスの部分もあるのかなというイメージを受ける。

(事務局)

「全国初の」の「初」にこだわる必要はなく、土壌としてスポーツ宣言をしている都市ということ。スポーツを推進していく環境というのが既存としてあるので、さらに発展的に考えていくという意識のもと、地域資源という言葉を使っている。

(事務局)

都市宣言をすることで、市全体としてスポーツに力を入れているアピールになる。宣言が資源になるのではなく、スポーツに対して関心を持ち、市としてバックアップをしていることを「地域資源」としている。スポーツ施設を作るのではなく、スポーツを楽しんでやることを含めたスポーツ都市宣言なので、それに近づいてきていると思う。

(事務局)

補足で、例えば、苫小牧といえばアイスホッケーというイメージがあるが、実際に市役所にも九州や長野県からホッケーをしたくて苫小牧市役所に就職をした者が何人かいる。そのような魅力を、もっと全国に発信する意味で「地域資源」としている。

(委員)

まずは(20 ページ) ②女性が子育てしながら仕事を続けられる社会環境の整備というのが第一優先だろう。子供が欲しいが、お金がかかるから2人目、3人目の子供は我慢するのが現実だと思う。

1900年代前半から、フランスが極端な少子化になり、国を挙げて対策をとり、人口のカーブを上昇させたという記事が載っていた。フランスには家族手当金庫というものがあり、家族手当に30以上のいろいろな手当がつく。国の政策によって家族を大切にす、安心して家族を増やす考え方が国民に浸透されている。家族法というものも国で策定して、家族を大事にし、家族を増やす政策をフランスはとっている。

では、これをどのように苫小牧に落とし込むか。最初は少額でも良いので苫小牧オリジナルの家族手当という項目を作る。苫小牧は家族を大切にすまちだというのがあると、そこから何か広がっていくのではないかな。

(委員)

資料2【参考】で、関連する既存事業とこれから予定されている新規事業が、かなりの事業数になると思うが、統廃合等を進めて効率的な事業展開をすれば良いのではないかな。

人口の増減のグラフで、(資料1、9 ページ) ⑤を選択するのが良いという話だったが、苫小牧市自体の人口に対する損益分岐点みたいなものもあると思う。そういったものも指し示しながら、目標を設定すると更に分かり良いのではないかな。このグラフで提示するにしても、市の財政自体はこの人口レベルでプラマイゼロなので、そこを目標に財政面では総合戦略を進めるとい提示があれば、目標も分かり良いのではないかな。

(委員)

当然、優先順位はあるだろうが、全てにおいて進めていければ一番良いことだ。

その中で、(資料1、20 ページ) 大きな基本目標①~④があるが、視点が女性と子供、学生、企業と、とても良いのだが、もう1点、人口比率として多い60代以上の方をもっと有

効に落とし込むことが必要なのではないか。50代、60代の人たちに活躍してもらえる市の作り方をすることで、全体が生きてくるのではないか。できれば60代以上の方々が、ボランティアなどいろいろなところに入り込んでいけるような機会を作ってもらえればと思う。

(委員)

自然豊かな地域の魅力を再発見していくということと、企業誘致等々の都市化の両立は可能なのか。どちらかに特化していくべきではないかと思った。

苫小牧市民のアンケートにも出ているが、交通の利便性が悪い。これは苫小牧だけの問題ではなく北海道全体に感じることだが、このことと観光業が成功するかは、同じ問題を抱えているのではないか。観光客は自分の足がないので、公共の交通機関に頼るしかない。観光客を絶えず呼び込むためには、交通の利便性を高めなければならない。また、来た人は必ず飲食や買い物等、生活の一部をそこでしなければならぬ。観光を1つのテーマの目標とする時、ある程度、地元住民の住み良さの条件を満たすということとパラレルのように思う。

まちづくりの段階でも同じ根を持つ問題で、交通の利便性が悪いと人の流れがなくなる。都市機能は一箇所集中すべきで、分散しているとそこだけが目的化してしまい、ついでに情報を得たり、お金を落とすことがない。都市機能を高めるとともに、観光を考えるのであれば、同時に交通アクセスを考える必要がある。

(委員)

苫小牧市総合戦略(骨子案)に若者の市内就職の促進と女性という大きなカテゴリーがあるが、就職の希望で、製造業は男性、事務職は女性が多い。苫小牧はものづくりのまちとして、製造業に女性を活かさない手はない。製造業への女性参加の支援として、工場内への女性用トイレや更衣室などの設置に対する市の補助があれば良いと思う。また、工場には24時間稼働というところもある。企業が合同で24時間可能な託児所などを設置し、市がその補助を行うのも良いのではないか。

苫小牧には高専という高等機関があるので、高専などでもベンチャーをやりたいという声があれば、そこへの支援をしても良いのではないか。起業者への家賃補助も良いのではないか。金融機関は目利きとして通っているので、創業資金が融資されている先であれば、それを条件に家賃補助を行えば、新しいビジネスの定着率というものが高まるのではないか。

空港、港の連携とあったが、観光面でも千歳市との連携が非常に重要だ。観光面では、苫

小牧は不慣れな分野と思われる。観光資源としてはウトナイ湖、樽前山など、いろいろある。その中で、宿泊は支笏湖や登別温泉に任せておいて、その間で立ち寄ってもらう広域連携の観光の方法もあるのではないかと。

スポーツの面で言えば、スポーツ都市宣言があるが、昔、緑ヶ丘公園に合宿施設があった。合宿を呼び込むためには、宿泊施設が少ないと思う。大部屋みたいなのところでも十分なので、合宿施設があればもっとスポーツに関する人たちが来るのではないかと。

(委員)

総合戦略の骨子としては、良くできていると思う。個人的には、具体的な予算取りをされた後に、具体的な数値目標などを見られたら良かった。できる、できないより、まずはやってみようと思うような具体的な数値目標を立てて欲しい。家族手当の話がでたが、当社も手当の内容が変わってきている。また、高齢者を考える際には、これから年寄りになる世代が、苫小牧市に対してどのようなまちになって欲しいかが大事なことだと思う。

(委員)

社人研で作った推計は2010年からスタートし、2015年の数字が17万1千人台だが、現実には、そこまで減っていない。この5年間で、社人研の推計と実際はどう違って、減っていないのかの分析が必要なのではないか。その分析結果によって、目指すべき方向性のカーブが高いものなのか、どうかが見えてくるのではないかと。

施策の部分については、年齢別の人口構成を見ると10代後半でガクンと落ちる。これは高校卒業し、大学進学の際に、都市部に流出するのが原因かと思う。高校生が就職の際の市内就職を促進する事業は良いと思う。

学生と地元企業との縁づくり促進については、高校生はもちろん、苫小牧駒澤大学、室蘭工大、高専の学生との連携をした中で、地元就職を図る施策なのだろうが、高校生が出て行かない政策をとるのが一番良いと思う。出て行のは止むを得ないが、戻って来てもらう施策で、経済的な支援をするという検討はできないものか。

(委員)

私どもの活動の中で、市に、社会格差、雇用格差の影響を受けて、教育格差という問題の解消の要請を出している。事業の中で、3人目の子供が云々とあるが、雇用が不安の中で3人目を考えるかということと実情は難しく、むしろ、結婚をして、家庭をもって、子供を生むと

いう状況すら不安を感じる。

もう1点、Iターン、Uターンという方々を呼び込もうと思ったときに、「支援できるよ」というのも、アピールの1つになる。

幼児ばかりではなく、小中学校の子供たちまで支援できるものがあれば良いと思う。

(委員)

リタイヤされた人材の活用は非常に大事だ。今まで培ったノウハウを活用するのが、コミュニティ作りの第一案である。そういう意味では高齢者は必要な人材で、取り入れるべきだ。

骨子の中で、自然の魅力発信ということで、ライフスタイル確立のヒーリングスポットとしての苫小牧の魅力造成とあった。多くの自然の魅力が苫小牧市にはあるが、そういうものを発信できる体制を確立していただきたい。

苫小牧市はスポーツ宣言都市として、スポーツを推しているわけだが、アイスホッケー施設以外は整備が整っていない。ぜひ、アイスホッケー以外の施設の充実を急いで欲しい。

(委員)

保育所の現状は、精神的に気になる子どもが増えている。子供が増えても、その割合が増えれば、税収より、支出が多くなると思う。もう1つが、保育士のなり手が不足である。全国的に保育士の給料は安く、その改善が必要である。市内の子育て施設の会議では、新卒者が1人も来ず、こどもを預かりたくても、事業を縮小しなければならないという声があった。

子供の数は減少してきているので、1人あたりの子育て事業は大分充実してきているとも思う。また、今年の4月からの新制度で保育園と幼稚園が一緒になった施設もできてきたので、利用するほうも利用しやすくなってきているのではないか。

あとは、苫小牧の立地条件はとても良いので、その辺を全国的にアピールできれば良い。

(委員)

骨子案の④ワーキングマザー&ファザーのところ、苫小牧市長が27年度には苫小牧で日本女性会議を行うことを宣言している。先日、参画フォーラムを開いたが、行政の参加が少なく、2年後に女性会議をやるのに、これはどうなのだろうと個人的に思う。男女平等参画とは何かという方が、まだ多すぎる印象だ。

先ほど「年寄り頑張っている」ということだが、町連さん、民生委員さん、老人クラブさん、その組織力はすごい。こういう年齢の方を活用することは良いことではないか。

出生率の話で、フランスの出生率がすごいとのことだが、北海道千歳市でもポイントを上げている。そういうのも参考にしたらどうか。

現状で「苦小牧らしさ」を問われたら返せる自信がない。空洞化している駅前にコンサートなどの施設を作ると、駅の利用が増え、若者が増えるのではないか。

女性が子供を産み育てるといのは、今は違うということを啓蒙している。ある企業では3年ある産後休暇を今は2年に縮めているそうだ。なぜなら、3年間休暇を取ると会社の業務が変化し、復職後についていけないという本人の不安と、周りとの連携が取れないということで、2年に縮め、1年分は給料に換金している会社が増えているという話だ。

新聞記事に出ていたが、地方の大学を卒業し就職を親元の苦小牧でしたいが就職先がないという話があった。②の地元企業との連携というものはとても良い。

(委員)

この事業例が全てできれば素晴らしい。ただ、関連する事業が多すぎるのではないか。

私自身、苦小牧から札幌へ2年行き、また苦小牧に戻ってきた。なぜ戻ってきたか、その理由は自分でも定かではないが、苦小牧は好きだ。子供の頃の思い出からではないかと思う。そう考えると、学習プログラムもそうなのだが、子供たちが思い切り遊べる場所、楽しめるイベントがあれば、子供たちの良い思い出になるのではないか。

(委員)

女性が仕事をしながら子育てができるという社会環境の整備の発信を、苦小牧市はキャッチフレーズなども含め、もっと大々的にする必要があるのでないか。千歳市は、大々的に「切れ目のない支援、22事業展開」となっている。苦小牧の施策の中にも、子育て世代包括支援センター事業と書いてあるが、これはどの程度のものなのか。イギリスは「ゆりかごから墓場まで」ということで、教育費、医療費の負担はなしだ。苦小牧は「ここまで安心して育てられる」といえることが大事ではないか。

元々障がいのある子と、家庭内暴力で似通った症状を起こすような子が増えている。子供を育てることができない家庭環境の子が、保育園に多くいると聞く。そのような子供たちに対しての大きな施策と、ソフトな面の充実が大事ではないか。

「女性が仕事を続けられる」でいえば、市の働きかけで複数の企業をまとめ、産業カウンセラーを配置し、子育てしながら働く女性の精神的フォローができるのではないか。

大学や専門学校の進学、就職等、苫小牧は十分、札幌の通勤圏だ。余裕のある家庭は札幌に住ませるが、余裕のない家庭は通っている。通学時の交通費の助成があると、苫小牧に住みながら通え、就職の時も苫小牧で探そうという気持ちになるのではないか。

出生率の向上に関して、今、出生率が高いのは30～34歳。妊娠・出産に関わるトラブルがあり、不妊治療をする方は多くいる。不妊治療をするために札幌まで通っている話も聞く。この辺ももっと手厚くすると、出生率の向上につながるのではないか。

(委員)

保育園の実質的な待機児童が多く、働きに行けない女性が多くいる。苫小牧は広域なので、地域ごとの充実を図らなければ、結局預けられないという地域が出てくる。保育園、幼稚園のあり方をもう一度考え、どちらも使いやすくすべきかと思う。

家族手当なども大事だが、配ったお金の用途が分からないため、現物支給の方が良い。子供のためのお金が、子供のために使われることを大事にしていきたい。

企業隣接型の保育ステーションとあるが、一企業で作ると責任が重くなるので、一地域で1つあれば多数の企業が協力して共に作っていただけるのではないかと思う。

習い事送迎バスの検討で、送迎バスを利用でも、それに合わせて勤務時間を変えている。送迎バスの利用の仕方や、車で送り届けて良い時間など、もう少し利用しやすいシステムを検討できないものか。また、ご当地スポーツ推進で、アイスホッケーなどは道具が多く、結局、全て送り迎えをしなければならない。そういった部分の支援はないものか。

(オブザーバー)

「中小企業」というキーワードは大切だ。雇用の大部分を支えているのは中小企業だ。中小企業は、女性の仕事と子育ての両立支援という部分で、雇用形態の多様化に多くが対応している。企業支援ということが載っているのは非常に良かった。

要望として、産業競争力を高めるところで、進出予定企業の助成制度というものがあるが、業種や特定地域に絞られるのかもしれないが、外から移転してくるという点を含めて、創業の方にも少し助成を広げてほしい。

市内に戻ってくる人への経済支援のほか、市外の大学、専門学校等、もちろん地元の学校も含めて、市内から通って地元で就職してくれた方には奨学金の利子補給をしてはどうか。

(オブザーバー)

市町村をまたいだ広域的な取り組みといった面で、いろいろと支援していきたい。胆振だけではなく日高、石狩などとも連携していきたい。振興局の単位で動いているわけではなく、幅広くいろいろな分野で連携を進めていきたい。

3 その他（事務連絡等）

ア 上乗せ交付金事業の状況 説明省略

イ その他 次回の日程について

4 閉会